

研究区分	教員特別研究推進（国際共同研究・国際交流の促進）
------	--------------------------

研究テーマ	マレーシアマラヤ大学との大学間協定締結を志向した研究交流促進				
研究組織	代 表 者	所属・職名	薬学部・教授	氏名	竹内 英之
	研究協力者	所属・職名	マラヤ大学 薬学部・准教授	氏名	Phan Chia Wei
		所属・職名	マラヤ大学 マッシュルーム リサーチセンター・センター長	氏名	Vikineswary Sabaratnam
		所属・職名	薬学部・客員教授	氏名	南 彰
	発 表 者	所属・職名	薬学部・教授	氏名	竹内 英之

講演題目
マレーシアマラヤ大学との大学間協定締結を志向した研究交流促進
研究の目的、成果及び今後の展望
<u>研究の目的</u> 当分野ではこれまでに、マレーシアマラヤ大学の他にタイスラナリー工科大学微生物技術センターの Sureelak Rodtong センター長と共同で、タイ産機能性食品の開発やシンポジウムの開催を行ってきた。これらの共同研究や研究連携の実績を基盤に、同大学との大学間協定を更新した（2026 年 3 月 6 日締結）。さらに、マレーシアマラヤ大学マッシュルームリサーチセンター長 Vikineswary Sabaratnam 教授との共同研究によって、継続的にマレーシア産機能性食品の共同開発を行い、ヤマブシダケが更年期のうつや骨代謝低下を改善することなどを見出している（A. M. Anuar, et al., Biol. Pharm. Bull. 2022; N. Morita, et al., Clin. Exp. Obst. Gynecol., 2020; A. Minami, et al., Biol. Pharm. Bull. 2013）。これらの研究実績を基盤として、本学とマラヤ大学との部局間協定を締結した（2019 年）。本協定に基づいてマラヤ大学より Azliza Mad Anuar 氏が大学院博士後期課程に進学し、2023 年に当分野において博士号を取得している。Anuar 博士は当分野において、女性が示す高い認知症発症率は更年期における非ヒト型糖分子の脳内蓄積が一因となる可能性を示した。現在、当分野ではマラヤ大学との共同研究を加速させることにより、マラヤ大学との協定を部局間から大学間へと移行し、新たな大学間協定の締結を目指している。 <u>成果及び今後の展望</u> 本研究においては、マレーシアで研究補助員として活躍されている Anuar 博士（現 順天堂大学研究員）の発見を論文として共同で報告するとともに、マレーシア産機能性食品を共同で開発する。具体的には、マレーシア発祥で伝統的に免疫賦活化薬として活用されているタイガーミルクマッシュルームを利用して、更年期の認知症を改善する機能性食品の開発を行った。本研究は、マラヤ大学と本学との部局間協定に基づいて本学で博士号を取得した Anuar 博士が担当した。研究面のみならず教育面における連携強化が本研究の特色である。マレーシア原産のタイガーミルクマッシュルームは、免疫賦活化や抗がん作用を含む多くの薬理活性を有する。本研究で期待する血液脳関門の透過性の高い更年期神経障害治療薬の開発は他に例をみない。エストロゲン受容体は男性の神経細胞にも発現しており、女性のみならず男性や若者に発症する精神疾患に対しても有効である可能性がある。すなわち、更年期障害のみならず抗精神疾患薬の開発への展開が期待される。また、マラヤ大学に在籍する修士学生に対して本学における研究をアピールし、国費留学制度を活用することによって本学博士後期課程に誘致する。